



東稻ニュース 第7号

早稲田大学東久留米稲門会

平成 14 年 8 月 10 日発行
発行責任者 高橋 勤
編集責任者 比護 喜一郎

<http://homepage2.nifty.com/35292/>

会の告知版

9月 1日(日) 東久留米稲門会納涼・懇親会 ハワイアンバンド演奏

18:30～ 於 市役所市民プラザホール

会費 5,000円(ご家族 2,000円)

*アトラクションに当会会員森富士雄氏が所属する「ケンハワイアンズ」
が出演、同バンドは5人編成で各地でライブを行っている。

10月 6日(日) 第6回 東久留米雑学塾

15:00～16:30 於 中央公民館

演題「わたしの日本人論」

第1話：イチロー選手とグローバリズム

*第2話「"草食文化"という視点」は12月1日講演予定

講師 國米家己三(元産経新聞記者、当会顧問 31年政経)

役員会

13:30～15:00 於 中央公民館

10月 10日(木) 妙義山麓、日帰りバスツアー (散策山歩き・グルメ部会共催)

会費 6,500円(含:バス代、昼食・飲み代、入浴料、保険料)

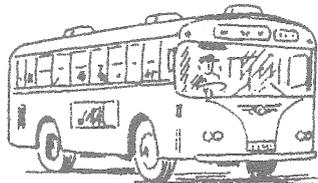
旅程 午前8時東久留米駅東口出発、関越・上信越道→妙義神社→
妙義山麓・さくらの里ハイキング→野外ステージにて昼食→
もみじの湯で入浴・休憩→ふるさと美術館・物産センター
→19:00 東久留米駅着(解散)

*雨天決行。但し天候次第でコース変更あり。

定員40名(バス貸し切り) *申し込み先着順にて締め切り

お申し込み 神田(グルメ部会長) 電話 71-0808

川上(散策山歩き部会長) 電話 71-1327



[部会スケジュール]

太極拳部会 毎月毎週土曜日 10:00～11:30 成美教育文化会館

*8月より毎週土曜日開催となりました。(但し8/17はお盆休み)

書道部会 毎月第二日曜日 13:30～16:00 中央公民館(原則)

俳句部会 8月25日(日) 13:30～17:00 中央公民館

9月16日～17日 吟行(鬼怒川、竜王峡、鬼怒川温泉郷泊)

囲碁部会 毎月第四日曜日 13:00～16:30 成美教育文化会館

[大学・校友会関係]

10月20日(日) 稲門祭・ホームカミングデー(詳細前号参照)

早稲田の広報戦略をめぐって

國米家己三（当会顧問 31年・政経）

最近、早稲田大学の関連記事が、各種のメディアに盛んに登場するようになった。

数年前に比べると、比較にならないほど高い頻度で情報が流れている。それも、以前は「早稲田ブランドの凋落」「志願者が激減」などといった、負の、マイナス・イメージの情報ばかりだったが、近ごろは様変わり。明るく、展望のもてる記事がふえている。今年7月前半だけでも、「早大と岐阜県、知能ロボットで共生に挑む」「早大大学院にナノテク専攻」「早大が本庄にリサーチ・パーク」「早大交響楽団、赤坂で公演」「コーセー・早大、ナノ粒子配合で化粧品原料開発」... etc.といったぐあいだ。

いったい、いつごろから早稲田についてメディアの流れが変わったのか。負の情報が、正に、プラスに転じるようになった分水嶺は、どこにあるのか。それはやはり、奥島孝康総長の壮大な“グローバル・ユニバーシティ”という改革ビジョンが軌道に乗り出したところからだが、同時に大学本部が強い意思をもって広報戦略を実際に展開するようになったことも見逃すべきではないと、私は思っている。

もともとジャーナリズムの世界には、無数といってもいい早稲田OBが活躍している。母校、早稲田は取材しやすいし、記事も書きやすい。ときには「早稲田のことだ、少々ペンを走り過ぎても許されるだろう」といった甘えが働くこともあったのではないか。大学のサイドにしても、「卒業生が、そうそう出身校を誹謗することもなかろう」などと、たかをくくっていた姿勢がなかったともいえない。負の記事が大きな流れをつくると、横並びで各メディアが、早稲田をあしざまに書いて平気な時代ができてしまったようである。

大学の広報戦略で注目されるのは、総長自身が、一種“広告塔”の役割を担い、メディアで精力的に発言したことだ。しかも今年はラグビーの清宮克幸監督、6大学野球の和田毅投手が人気をさらった。広報で人の顔がでることの効果は想像以上に大きい。ジャーナリズムの世界では“ヒューマン・インタレスト”といって、より人間くさい報道の手法をとるものだが、お陰で、今年、早稲田は大学の好感度日本一になるはずだ。

ひるがえって、わが東久留米稲門会。親睦団体であるから、対外広報というものを考える必要はないともいえるが、ただ会規に「本会は（中略）早稲田大学および東久留米市の発展に寄与することを目的とする」の文言がある。内向けだけですますわけにもいかない。それゆえに、すでに地元市民にも開放した「東久留米雑学塾」が動き出している。広報は必要だろう。具体的には、どうするか。いわゆる“ヒューマン・インタレスト”式に、できれば会長や役員が積極的に市内の文化団体と接触することがひとつ。そのほかに、もう一本、市民の広い層が参加できるイベントを恒常化することを検討してみてもどうだろう。たとえば、仮称だが「東久留米詩謡祭」。白秋や雨情、八十といった稲門出身の詩人、作詞家の作品を中心に、コーラスを歌い、聞き、かつ朗読するイベントを年1回開催する。これによって当稲門会による地元貢献を実現し、当稲門会の存在を広報するのである。あくまで試案に過ぎないが、...



大学・校友会の行事

次期総長 白井克彦理工学部教授当選

次期総長を決める「総長決定選挙が6月14日に行われ、白井克彦理工学部教授（1963年本校理工学部卒 62才）が投票総数1、708票のうち949票を獲得し、当選者となった（次点は津本信博教育学部教授）。白井教授も総長就任を受諾した。任期は本年11月から2年間。

東伏見ラグビーグラウンド閉幕

70年余の歴史がある東伏見ラグビーグラウンドが7月7日その幕を閉じた。早稲田大学ラグビー蹴球部は、同日”東伏見グラウンドさよならイベント”を開催（西武鉄道後援）、ラグビー愛好者は勿論、現役・往年の名選手、近隣市長、地元商店街の皆さん等大勢の人々が参集し別れを惜しんだ。この模様は7月19日NHKテレビ「特報首都圏」でも放映された。

部会便り



郷土研究部会

前第5号（4月10日発行）の大圓寺（仁王・文殊菩薩・七福神像）、米津寺（布袋尊）に続いて、今回は多聞寺（毘沙門天）、浄牧院（大黒天）、宝泉寺（弁財天）を紹介します。

落合川に沿って在る多聞寺は真言宗智山派に属し、今から約750年前、元仁年間に草創され、貞和5年（1349年）祐観上人が止往して、毘沙門天を本尊とし、宝塔山吉祥院多聞寺と寺号を改めた。文明、寛文、延享の3度の火災で記録はないが、本尊の毘沙門天（木像）は聖徳太子の作とも伝えられている。当山は、武蔵野三十三観音霊場第五番の札所また多摩四国八十八ヶ所第三十七番の札所でもある。

東久留米駅より東へ5分歩くと浄牧院が見えてくる。開祖は崇芝岱禅師、八王子の城主北条安祝の開創と伝えられている。山号は神護山で曹洞宗、本山は福井県永平寺と神奈川県総持寺である。関東路、百八地藏尊の百七霊場になっている。

浄牧院から北へ15分、東久留米団地寄りに宝泉寺がある。宝泉寺の由来については明らかでないが、明治28年の社寺調書では承和5年（838年）慈覚大師の開基と記されている。天台宗峯亀山洞明院、本尊は阿弥陀如来である。このお寺の弁財天は珍しく板絵で、弁財天の座像に十五童子の立像が描かれている。この板絵は東久留米市の文化財に指定されている。



以上2回にわたって「東久留米市七福神」を祀っているお寺を概要いたしました。この取材にあたり、各お寺の住職さんをはじめ、協力いただいた方々に改めて御礼を申し上げます。当部会では、以上五つのお寺巡りを10月27日（日）に予定しています。徒歩4～5時間のコースで、それぞれのお寺の住職に説明をいただく予定です。汗を流した後の補給も予定しています。詳細は後日ご案内いたします。

（高橋哲男記）

俳句部会

俳句を詠む上で必要なキマリさえ知らずに同好の仲間と一緒に始まった当部会も、メデタク7年目に入った。当部会は地位、権力、肩書き、名声、財力、老若、性別等情実の一切介在しない感性と趣味の世界で遊べる時間を同好の士が共有して過ごせる楽しくて仕方のない会である。年8回の句会を楽しんでいるが、一泊二日の吟行の時などは、待ち遠うしく、まるで遠足の日を待つ小学生みたいである。

”名句をと おそれげもなく 絞る汗”

春夏秋冬の移り変わりに目を留めるようになり、それまで気忙しさにかまけて見過ごしてきたことが悔やまれてならず、今からでも取り戻したいと念願している。(馬場清彦記)

- 5月26日(日)第39回句会高得点句(三点句以上) <季題>噴水、草いきれ、薄暑

噴水をもうひと回り車椅子	比護喜一郎
負け試合少年去りて草いきれ	”
上着持つ右手けだるき薄暑かな	三田 三(畔巢)
木陰にて小犬腹這う薄暑かな	大久保泰司
海岸線豊かにのびて村薄暑	太田蔵之助(千雪)
舞うように噴水低くまた高く	坂本信太郎

- 7月21日(日)第40回句会高得点句(三点句以上) <季題>天道虫、雲の峰、向日葵

てんとう虫しゃがむ幼児の掌から発つ	神田尚計
銀髪の神父の襟に天道虫	太田蔵之助(千雪)
向日葵や廃校近き運動場	桜庭 明
浄土より妻帰り来よ雲の峰	”
向日葵が見張る路傍の無人店	三田 三(畔巢)
駅長の指呼の彼方に雲の峰	”
汐だまり蟹よぎりゆく雲の峰	馬場清彦
雲の峰備前瓦の蔵屋敷	松田博雄

書道部会

前回、勉強中の古典のことで、中国晋朝の書聖・王羲之にふれましたが、唐代では、褚遂良と欧陽詢の書を学びました。世界人名辞典に依れば、褚遂良(596-658)は唐の太宗の書道の顧問となり、太宗が王羲之の書を集めていたので、その収集事業の管理をまかされた。このため彼の書も大いに上達し、唐代書道家の第一人者となった。

欧陽詢(557-641)は隋朝末期から唐朝初期にかけて活躍した。隋の晋帝及び唐の高祖や太宗にも仕え、その名は遠く高句麗にまで及んだ。その書法は、王羲之の流れを継ぎ、のち独自のものを打ち立てた。褚遂良、虞也南とともに唐代の大家といわれている。



7/14教室より 一曰田部員提供

本年度の合宿は9月7日(土)、8日(日)箱根仙石原地区を中心として準備されており、まもなく最終決定されます。(深沢政次記)

囲碁部会

時系列に沿って当部会の活動状況をお知らせします。

去る6月22日(土)の午後、恒例の東村山稲門会囲碁部との親善対局(第3回目)を行いました。今回は当方から6名の部員が東村山市民会館に出向き激戦を展開しました。

また7月7日(日)には、人形町囲碁クラブで「第2回オール早稲田囲碁祭」の実行委員会が開かれ、当部会からも2名が出席、昨年の反省とこれからの運営について話し合いを行いました。会議終了後夕刻まで、多少のアルコールを交え、指導碁・自由対局などで親交を深めました。

7月20日(土)の午後、懸案であった西東京稲門会囲碁部との交流を持ちました。こちらから4名が先方の会場である世話役、都築氏の自宅を訪問、自由対局を行いました。対局後、次回は東久留米に来ていただき、東村山を含めた三地区対抗戦の開催など話がぐいに盛り上がりました。
(H14.7.26 辰巳徳蔵記)

太極拳部会

7月13日成美教育文化会館の1階大ホール借用を機に、本市在住の楊名時太極拳同好グループ(錦会、翠会その他)に合同稽古会の開催を呼びかけたところ、総勢約50人程の参加があり、全員和気藹々の演舞で会館大ホール中に気が充満して、各自それぞれ太極拳を満喫し更なる友好を深めることが出来た。
(船尾 和三記)

グルメ部会

回を重ねるごとにますます人気が高まってきたグルメ部会の「第3回グルメ探訪の会」は6月29日(土)清瀬市元町のイル カバロ ビアンコ(白い馬)でイタリア郷土料理を楽しんだ。当店シェフの阿部博さんはイタリア料理界では著名な方だとか。参加者14名うち女性3名、希望者はほかにもたくさんおられたが会場の都合で残念ながら先着順となっただけらしい。

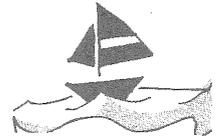
イタリア郷土料理と聞くとなんとなくナポリあたりを想像しがちだが、ここはスイス、フランスに近い北部エミリアロマーナとリグリア地方の家庭、郷土料理。店の人に聞くと食材に大きな違いはないが南を田舎風とすれば北は洗練された都会風とでも言えましょうか、とのこと。

まずは何よりワインから。キリッと辛味の効いた白、香りからしてヘルシーな赤、どちらも素晴らしく血行の活発化とともに参加者の舌の動きも滑らかになる。

前菜は見るからに新鮮な厚切りサーモンのマリネ、パスタは緑の枝豆を散らした小鳥賊入りの手打ちスパゲッティ、メインは鱈のポアレあるいは茸入り牛ヒレステーキと続くがどの料理も鮮度のいい旬の食材、味付けは上品でくどくない。また盛り付けがいかにも品良く気が利いている。サラダは燕、これまた歯ごたえもソースの味もワインの効いた舌には絶品であった。そして豆腐のようになめらかなチーズケーキのデザート、コーヒーとなる。

「好きな酒と好きな料理を好きなときに好きな店で好きな仲間と好きなだけ味わうことが食の醍醐味」と聞いたことがある。まさに気心の知れた親しい仲間との楽しい会話こそが最高のソースであると実感したグルメ会でありました。店の選択から案内、当日の世話まで幹事の細かい気配りに改めて深謝。
(三田 三記)

噴水広場



大型クルーザー「稲魂」に乗船して

川上 昇一 (散策山歩き部会長 32年政経)

前日までの天気予報では100%の雨。が、当日は幸いにも少し肌寒いものの曇り空。楽しみにしていた相模湾でのヨットによるクルージング。昭和25年早稲田大学高等学院入学時の恩師、三浦和雄先生を中心に学部卒業以来続いている「三和会」の集いである。幹事役は毎年持ち回りで、各部出身者2~3名が担当することになっているが、今年は法学部卒の小林・中田両君が当番役となった。中田君は学院、大学を通じてヨット部に所属、ヨットとの関わりは50年を上回り、自身ではクルーザー「げっこう」(艇長33フィート、定員12人)のオーナーとなり仲間とセーリングを楽しんでいる由。また今回は参加してはいないが、元早稲田ヨット部監督で今なお日本ヨット界の重鎮である武村洋一君(三和会メンバー)は、アメリカズ・カップの日本の事務局で、山崎会長を補佐して多忙を極めているとのことである。この様な関係から今年の「三和会」は幹事の配慮でヨットによるクルージングに決定したわけです。

さて当日、甲府、宇都宮からの参加者も合流して総勢13名、三崎口駅前よりタクシーに分乗、油壺ヨットハーバーに向かう。我々の到着を待って、SPIRIT OF WASEDAと書かれた大学所有の大型外洋クルーザー「稲魂」(艇長40フィート、定員20人、8ベッド・バス・トイレ付)は停泊地からゆっくりと岸壁に横付けられる。クルーは浜田裕艇長(昭和30年学部卒)、佐伯浩一、米田晴二、鈴木賢太郎、遊佐喜弘(敬称略)の諸先輩5名。いずれもヨット部OBのベテランヨットマンである。翌5月18日、葉山沖で行われる早慶ヨットOB戦を控えていたが、我々後輩のために世話役をかって出て戴いた。学部での体育実技にヨットを選択した者もいましたが、大半は荒天候下のクルージングへの期待と緊張感、船酔いへの不安をもって乗船。キャビン内の説明、ライフジャケットの装着、キャビン内よりデッキの方が船酔いは少ない等々クルーの方々には種々お気遣いを戴きました。

予定時刻10時15分、艇は岸壁を離れ、石原都知事所有のヨットをはじめ湾内に停泊中の豪華なヨット群の間を抜けるまではエンジン航行。湾外に出ると中田君を含めた6名のクルーが、艇長の指示のもとそれぞれの持ち場で甲斐甲斐しく動き帆を揚げ帆走に移る。波静かな湾内と違い波浪も高く、クルーのキャップも飛ばされるほど風も強くなる。永年ヨットに乗っているベテランでも、時には船酔いに苦しむこともあるとか。片方の舷が海面に近付き、思っていた以上の大きなシール。初めての乗船者は少々不安になる。が、ビールを片手に、もう一方の手は艇にしがみつきなながら荒波のセーリングを大いに楽しむ(?)。約10ノットの快走のなか、石原裕次郎、加山雄三、早稲田応援歌のBGMを聞きながら豊かな心地に浸る。艇は城ヶ島近くの相模湾を周遊、好天ならば富士山、伊豆の山々、大島、江ノ島を望めるところだが曇りのため視界は遮られた。

鉛色の海、波しぶきの中、かつてテレビで観たことのあるアメリカズカップ・ヨットレース、或いは南米最南端のホーン岬の難所で時化に遭遇、苦闘するクルーを重ね合わせながら午後12時15分、2時間の楽しいクルージングを終えて無事油壺ヨットハーバーに帰港。

艇を操船、お世話をいただいた諸先輩方の古希を過ぎてもなお青年時の夢を追う姿に接し、都の西北早稲田の杜に学んだ後輩の我々に人生の道標を示していただいたかの感を抱きました。また当稲門会員の鈴木賢太郎さんには、同士の誼で新潟〜ウラジオストック・レースのこと、計画中のタヒチ・オーシャンレース、豪州沖帆走、さらに日本一周クルージングのこと等々ヨットに関する楽しいお話を沢山聞かせていただきました。

艇長はじめ諸先輩の、出航準備から帰港までの終始温かいご配慮に感謝し、翌日のヨット早慶戦でのご健闘を祈りながら下船。岸壁で記念撮影の後、懇親会会場のホテル「観潮荘」に移る。まずは相模湾を見下ろす海洋深海層水の露天風呂でクルージングの疲れを癒し、懇親会に入る。おおいに盛り上がり最後に応援歌を唱い、学生時代にタイムスリップした2時間30分の懇親会はあっというまに終宴した。最後に来年は山梨で10月に開催、その幹事役も決めて再会を約し散会した。参加者全員が楽しんだ実に有意義な一日でした。(14年6月23日)

東久留米雑学塾一講演要約

6月2日(日)中央公民館で当会主催第4回雑学塾が開催された。講師は当会幹事で弁護士の方真吾氏。演題は「損害賠償あれこれー最近の裁判事例から」。同氏は、最近手掛けた裁判事例を元に損害賠償の総論から各論に至るまで、身近な事例に即して簡潔にわかりやすく解説、一般市民を含めた40名余の参加者は熱心に聴き入った。



第4回講演「損害賠償あれこれー最近の裁判事例から」

講師 泉 真吾

(東久留米稲門会幹事・弁護士 40年法)

<事故の概要>

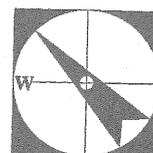
90才のお年寄りが右大腿骨折で入院、手術も終わり退院目指してリハビリに励んでいたところ、リハビリのためベッドから車椅子に移す時に看護師のミスでベッドから落ちて、今度は左大腿骨折で(その時腕時計を破損)、再手術をしようとしていたら、事故数日後肺炎を発症し退院も果たせず再骨折から1週間で死亡。当人はそれまで至極元気で内臓もどこも悪いところはなく、周りから100才まで生きると言われていた。それまでは一人で住んでいたが、入院を機会に退院後は娘のところに同居することになり、娘宅(築後6年)をバリアフリー住宅に600万円ほどかけて改築した。しかし結局無駄になってしまった。病院側は落下事故の非は認めている。

この事例に基づき、損害賠償を巡る論点が次の9項に分類され、解説された。

1. 賠償の請求相手は誰か 病院・看護師
2. 入院・治療費の負担は. . .
3. 腕時計の修理代若しくは新規購入代金は. .
4. 肺炎による死亡について責任は. . . 相当因果関係の有無。骨折と肺炎は関係あるか。
5. 葬儀代、初七日、四十九日、墓地購入費は. . . 人間は必ず死ぬ。病院に請求できるか。
6. 逸失利益 平均余命は過ぎているが、請求できるか。いくつまで男女差を認めるのが妥当なのか。ホフマン式計算方法。
7. 慰謝料とは一体どういうものか。そしてその額は . . . 死亡、後遺症、ショック、ノイローゼ、離婚
8. 家の改築費用は損害と認められるか . . . 重度の後遺症で一生車椅子生活になった場合バリアフリー化の改築費用は認められるか。
9. 弁護士費用. . 一般の裁判では裁判費用はどうなるのか。不法行為の損害賠償の場合は。

さて、皆様は、以上の問題にいくつ答えられたでしょうか。損害賠償の問題は複雑かつ難解です。詳しくは近く発刊される「講演録」をご覧ください。

東稲広報室



ポストマンが増員再編されました

郵送費の一層の節減を図って、各位のご協力の下、ポストマンを増強、担当地区割りが次掲の通り再改編された。(敬称略)

1区	氷川台、金山町の一部 神宝町、大門町、東本町	井坂 宏 安次峰暁	上の原、金山町の一部	棚野愛子
2区	幸町、本町の一部 新川町、浅間町	神田尚計 高橋 勤	本町の一部	松崎 博
3区	中央町、南町 前沢の一部	森田 隆 河村洋子	弥生、前沢の一部	佐々木洋一
4区	野火止、八幡町、柳窪	帆角信美	小山	竹山信保
5区	学園町、南沢の一部	平山正徑	南沢の一部	高橋哲男
6区	滝山の一部	鮎貝盛和		
7区	滝山の一部	西村 亨	滝山の一部	比護喜一郎

早大とアディダスジャパンが提携

早稲田大学は競技スポーツ再興に力を入れ、来年スポーツ科学部を新設するなどスポーツ分野を重視、さらに大学スポーツへのビジネス的取り組みが必要とし、7月18日アディダスジャパンとスポーツ分野における包括的パートナーシップ契約を結んだ。提携の第一弾としてラグビー部がジャージなど同社製の用具を使用する。
(7/19朝日新聞朝刊)

訂正とお詫び

前号(第6号)「平成14年度新入会員」で紹介しました小林利彦さんは、小林俊彦さんの誤りでした。お詫びして訂正します。

会員の声



○早慶戦観戦記-6月1日、春季東京六大学リーグ戦も終局に入り、早慶戦で1勝すれば早稲田が優勝するというところで神宮球場へ出かけた。参加者は当会会員の11名。最近では早慶戦でも学生の外野席は空席が目立つが、優勝がかかっているということで、今日はほぼ満席である。

試合開始直後、早大に1点が入り、2回には島原の2点ホームランで3対0とリードした。これにより学生応援団やチアガールもいちだんと元気づき、「よし、この3点があれば、和田が投げるのだから大丈夫だな」の声が聞こえてくる。終盤になっても和田の快投が続き、慶応を2安打に完封し、早稲田の六シーズンぶりの優勝が決定した。

「集まり散じて人は変われど...」 私は学生時代から何度も優勝を味わってきたが、学生と共に声高らかに唱う校歌には、常に感新たるものがある。
(安藤信雄 26年文)

○新宿区に大隈重信の「大」と福沢諭吉の「福」をとって「大福会」なる稲門・三田合同会が初めて催された。出席した新宿稲門会幹事から興味深く聞いた話だが、慶応では酒気を帯びての塾歌の斉唱は御法度の由。物事の捉え方、発想・視点の違い、思い入れ等早慶の校歌一つとっても違いがあるものだと感心しました。

(酒井健一平2社学、H14.7.9 e-mail要旨)

【編集後記】集まり散じて人も変われば、慣れ親しんだ所も変わっていく。多くのヒーローが生まれ、いくつかの戦術が生まれた東伏見早大グラウンドも時の流れに抗しきれなかった。七夕の7月7日、ラグビーのメッカの一つであった伝統の東伏見グラウンドは静かにその幕を下ろした。新しい伝統を創るために上井草の新転地に移っていく。早大ラグビー蹴球部の部歌、「北風」の大合唱に混じって唱う車椅子に乗った老ラガーの姿に一抹の淋しさを見た。さようなら そして ありがとう 東伏見グラウンド。